

## Intermediate Agree and Phases: Complementizers and Japanese *-to*

宗像 孝

横浜国立大学

本発表では、日本語の「と」が有する性質を明らかにすることにより、機能範疇である「補文標識」(Complementizer)と呼ばれている C がどのような役割を果たしているか明らかにし、位相(Phase)を越える長距離の一致操作(Long-distance Agree)において「と」を含む補文標識が中間点の役割を果たしていることを示す。

従来、日本語の「と」が導入する従属節は引用節であるか、補文節であるか議論の的であった(cf. Fukui 1985 and Kubo 1992)。本発表では、「と」は、長距離 wh 一致(long-distance wh-agreement)と 1 人称代名詞の参照との相互関係などの証拠から、that のような C として機能するだけでなく、引用導入標識(Quoter)としても機能しており、二面的な役割を果たすことを示す。そして、補文標識として機能する場合、全ての  $\phi$  素性( $\phi$ -features)を有しているので、Intermediate Agree に参加することが可能となり、長距離一致操作において、中間点の役割を果たすことを示す。このため、位相理論では排除されるべき、主文にある位相主要部と従属節内に存在する wh 句という複数の位相をまたいだ長距離 wh 一致が、補文標識が中間点となり橋渡しをすることによって可能となっていることを示す。引用導入標識の場合は  $\phi$  素性が一部欠落しているので、Intermediate Agree に参加できないので、中間点として機能できなくて、引用節内にある語句は節外にある語句と関係を結ぶことが出来ない。

C の存在は Intermediate Agree によって位相間を結ぶ橋となっているという重要な役割があるので不可欠であることが帰結として出てくることになる。